HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Охрана окружающей среды в Приморском крае: современное состояние и дальнейшие перспективы деятельности
Author(s)	Тарасенко, Ю.Г.
Citation	北海道とロシア極東地域の持続可能な開発に向けた環境フォーラム．平成20年6月19日．札幌市
Issue Date	2008-06-19
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/34131
Type	lecture
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	11-4-2_slides_in_Japanese.pdf (スライド(日本語))

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

沿海州の環境保全:
現状と今後の取り組み

Yu.G. タラセンコ,
沿海州環境保全局首席審議官
E-mail: tarasenko_yg@primorsky.ru

沿海州

面積 – 16万5900 км^2, 極東地域の2.7%、ロシアの総面積の0.97%。

州の境界線の総延長3000km超、内1350km海岸線。

人口約2百万人、人口密度12.1人/1 км^2。

州経済の中心は水産業と船舶関連産業。

<u>その他主な産業:</u>

ポリメタルと錫の採掘と加工。

機械製作、金属加工、造船、船舶修理、航空産業、電気通信産業。

木材加工。

化学工業、軽工業、食品産業、建設資材産業。

沿海州はロシアの太平洋地域の物資供給基地。

沿海州はロシア極東の交通運輸の要衝。交通インフラは主に海上交通と鉄道。

大気汚染

近年、燃料エネルギー部門の燃料消費が減少し、一部企業の生産縮小に伴い、固定汚染源による汚染物質総排出量の減少が続いている。

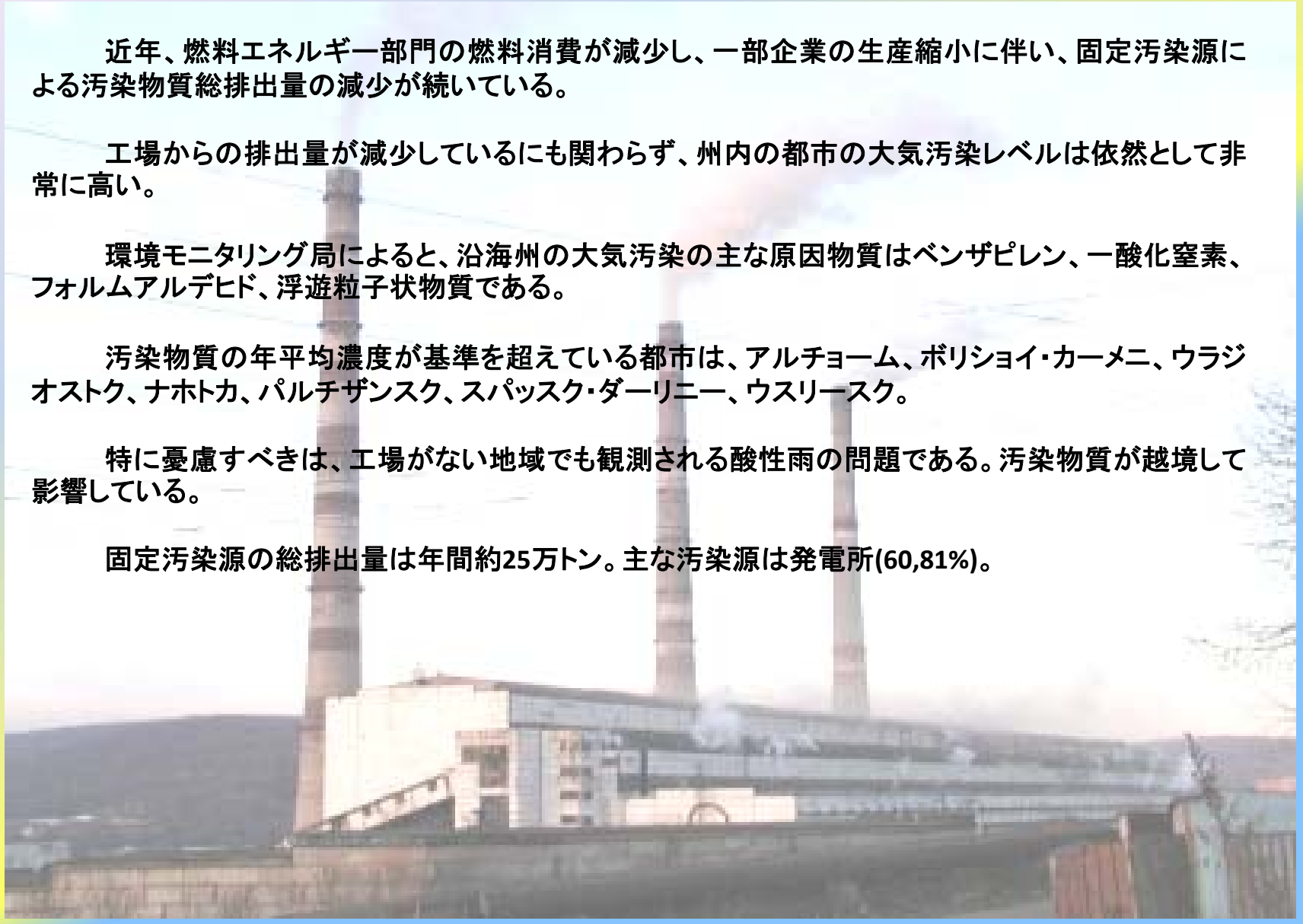
工場からの排出量が減少しているにも関わらず、州内の都市の大気汚染レベルは依然として非常に高い。

環境モニタリング局によると、沿海州の大気汚染の主な原因物質はベンザピレン、一酸化窒素、フォルムアルデヒド、浮遊粒子状物質である。

汚染物質の年平均濃度が基準を超えている都市は、アルチョーム、ボリショイ・カーメニ、ウラジオストク、ナホトカ、パルチザンスク、スパッスク・ダーリニー、ウスリースク。

特に憂慮すべきは、工場がない地域でも観測される酸性雨の問題である。汚染物質が越境して影響している。

固定汚染源の総排出量は年間約25万トン。主な汚染源は発電所(60,81%)。



大気汚染

州内には14000以上の汚染源があり、内、約8000箇所が恒常的汚染源。

固定汚染源の汚染物質は電気集塵機で91.4%が浄化されている。

州の大気汚染は車の台数の急激な増加と古い技術の老朽化した工場から出される汚染物質が原因。

自動車の台数が増えている中で、多くの車が排気ガスの中和装置を設置していない。今後、特に気象条件が悪い時など、車が大気汚染の中心的な汚染源になる。

今後数年で州内企業の生産力が急激に伸び、石油精製工場など新規工場の建設が増えることが大気への圧力を増すことにつながる。

都市部の大気汚染については、発電所やボイラーステーションで品質の悪い（灰分と硫黄分の多い）燃料を使用していることが原因のひとつである。

水質汚濁

現在、沿海州の水資源利用率は2.5%以下。しかし水資源の極端な不均衡分布のため、南部で大きな水不足問題がある。州の大部分（71%）は地元の河川からの取水に問題を抱えている。

州内の水資源は不均衡に分布している。州内に122の貯水池があり、内、飲料水用15、発電用4、農業用103。

州南部の飲料水や工業用水の供給は、主に河川の調整をおこなう季節貯水池や常設貯水池の配置（ウラジオストク、アルチョーム、ウスリースク、フォーキノ、ボリショイ・カーメニ）と河川や井戸からの取水（パルチザンスク、ナホトカ）によって行われている。

水質汚濁が激しいのはスパッスク・ダーリニー、レソザボツク、ウスリースク、ウラジオストク、アルチョーム。主な原因は下水処理場や工業排水の処理場がないことと、あっても処理レベルが充分でないこと。

市街地や工場内敷地の整理整頓や衛生状態の改善を望みたい。これが河川や湖沼に流れ込む雨水の汚染につながっている。

水質汚濁

2007年州内で排出された下水量は3億9940万トン、内、2億8910トンが未処理、4800万トンが不十分な処理。

主な水質汚染源は下水や石炭産業、非鉄金属、運輸関連部門からの排水。

現状はウラジオストク市に下水処理場がないことが原因。（現在、下水処理場の設計が行われており、近々、建設が始まる）

大都市の下水処理場はオーバーロード状態で、改修が必要。また余裕の能力もなく、浄化レベルも現在の基準に合致していない。下水管やポンプ場も老朽化が激しく、一部では磨耗率が100%になっている。

ピョートル大帝湾沿岸の環境は非常に悪い。汚染が拡大しており、未処理の下水や雨水の大量流入によって水質の悪化が続いている。

海洋環境や海底層の汚染物質の調査結果、ピョートル大帝湾水域の大部分で海水汚濁が続いていることが判明。

海水の油汚染の原因の一つが、船舶の燃料注入時の漏れや、油を含有している船内水をむやみに投棄していること。

産業廃棄物と一般廃棄物の取り扱い

沿海州の産業廃棄物や一般廃棄物問題:

- 産業廃棄物や一般廃棄物のための環境にやさしく安全な処理場や埋立地が不足している;
- 廃棄物処理施設が不足している(約80%の廃棄物が埋め立て);
- あらゆる廃棄物の収集処理の経済的推進メカニズムがない;
- 沿海州内における廃棄物受入施設の登録制度がない;
- 産業廃棄物と一般廃棄物の総量は5000万トン以上。内、産業廃棄物が98%。家庭ごみが2%。
- 危険廃棄物(ロシアの分類)は823万トンで、廃棄物全体の16.3%になる。

沿海州では廃棄物処理施設の整備が始まったばかり。 その処理の対象は家庭系廃棄物のタイヤ、バッテリー、プラスチック、古紙、使用済み水銀ランプなど。既存の処理施設は数も少ないが、能力も低く、現状を打破することができない。

一般廃棄物が大量にあり、増加傾向にある中で、リサイクル産業の整備が不十分なため、そのほとんどが埋め立てまわされる。現在、州内に数ヶ所の環境衛生基準を満たした廃棄物集積地がある。

錫、鉛、亜鉛、ホウ素その他鉱物の採掘および精鉱所から出る廃棄物処理の問題が未解決。
同時に、これら廃棄物の貯蔵地には、まだ抽出や利用が可能な大量の天然資源が残されている。

生物多様性

沿海州は高いレベルの生物多様性を有する、ロシア国内でも、世界的に見ても素晴らしい地域。

州内には哺乳類が320種、鳥類732種、爬虫類80種、両生類29種、淡水魚243種。またロシアに接する海には約1500種の魚がいる。

沿海州の動物相の特徴は、州レッドデータブック掲載の固有種や希少種の数が多いこと。

希少種や絶滅危惧種に対する最優先課題は、アムールタイガーと共に、世界的にも美しく珍しいネコ科のアムールヒョウの保護。

特別自然保護地域の総面積は、淡水海水面を含めて46万5059ヘクタールで、州面積の14%。

州内には6つの国立公園、2つの国定公園、12の鳥獣保護区、205の自然記念物、植物園や樹木園がある。

特別自然保護地域の最重要課題は、保護対象物の生物多様性の保全維持に向けた保護活動。

沿海州の環境政策の課題

- 沿海州の地理的条件や自然資源ポテンシャルの特徴を考慮しつつ、優先的環境対策のプライオリティや人間活動や危険な自然現象に対する生態系の持続性の判定。

- 州内全域で良好な環境を創設し、快適な住環境を整備する。

- 社会の持続的発展や生活の質の向上、健康増進、防災対策に向け、自然生態系の保護や再生、その保全や活力の維持に努める。

- 今ある最高の技術を利用して、沿海州の各産業が環境基準を達成し、産業や人々の日々の活動が環境に及ぼす悪影響を低くする。

沿海州の環境政策の課題

- 環境にやさしい技術、廃棄物の少ない技術、ゼロエミッション技術など科学技術の進歩を普及し、リサイクルを推進する。
- 環境モニタリングの効率的な実施と生産施設の監視。
- 企業やあらゆる所有形態の組織、行政機関などにおける国際スタンダートに合致した環境マネージメントシステムの普及。
- 環境教育、養育、啓蒙を総合的かつ継続的に行うことにより、住民の高い環境意識を形成する。
- 環境保全、環境安全、資源の合理的利用における効果的な国際協力。

沿海州の環境政策の推進

現在、沿海州では、環境の改善と経済を合理的資源利用に向かわせるための長期計画が推進されている:「都市、産業、農地その他有用地の洪水予防」プログラム、「沿海州民の飲料水供給」プログラム、「廃棄物」プログラムなど。

近い将来、新たに2020年までの州目的プログラム「クリーンな沿海州」が策定採択される予定になっている。このプログラムの中で州が抱える当面の環境問題の解決が見込まれている。

沿海州の環境対策費は毎年増加し、2006年には16億1230万ルーブル。

大気汚染物質の排出削減対策の結果、2006年の排出量は2800トン減少した。そのほとんどが既存のガス洗浄装置の効率アップによる。.

2006年汚染土壌の改良が197ヘクタールで実施され、現在その土地は農耕地や植林、貯水池などとして使われている.

2006年、18.7ヘクタールの造林が実施された。

沿海州の重要案件は、ピョートル大帝湾水域浄化プロジェクト、ウラジオストク市の下水道整備、発電所の灰捨て場撤廃と土壌改良、近代的な廃棄物処理システムの構築。

国際環境協力

沿海州行政府は北東アジア地域の行政機関や国際機関の参加国と共に、相互に関心のある問題について、幅広い国際協力を推進している。

北東アジア地域地方政府協会環境部会や北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット(沿海州、鳥取県、韓国江原道、中国吉林省、モンゴル中央県)などの枠内で、北東アジアの地方政府と共に、環境保全やその研究において積極的な国際協力を推進している。

沿海州では大きな国際環境プロジェクトが推進されている。

日本海黄海沿岸の海ゴミ汚染国際研究プロジェクト、
渡り鳥ルート研究、
海ごみ汚染防止国際地域プログラム、
東アジア酸性雨モニタリング国際プログラム。

沿海州行政府は現在進行中のプログラムはもちろん、今後、北海道ロシア極東地域経済協力発展プログラムの枠内で策定される新たなプロジェクトの推進に努力する。

州内では定期的に環境保全に関する大規模な国際イベント:フォーラム、国際会議、セミナー、シンポジウムが開催されている。

今後の国際環境協力の発展に向けた提案

経済活動が引き起こしている生物圏の変化について、今後起こりうる重大な結果を防ぐために国際的レベルで力を結集する必要がある。

地域間の環境分野の交流

環境保全や環境安全に関する実務経験だけでなく、科学技術の成果や新技術に関する情報交換、環境保全や環境技術分野の専門家交流が考えられる。

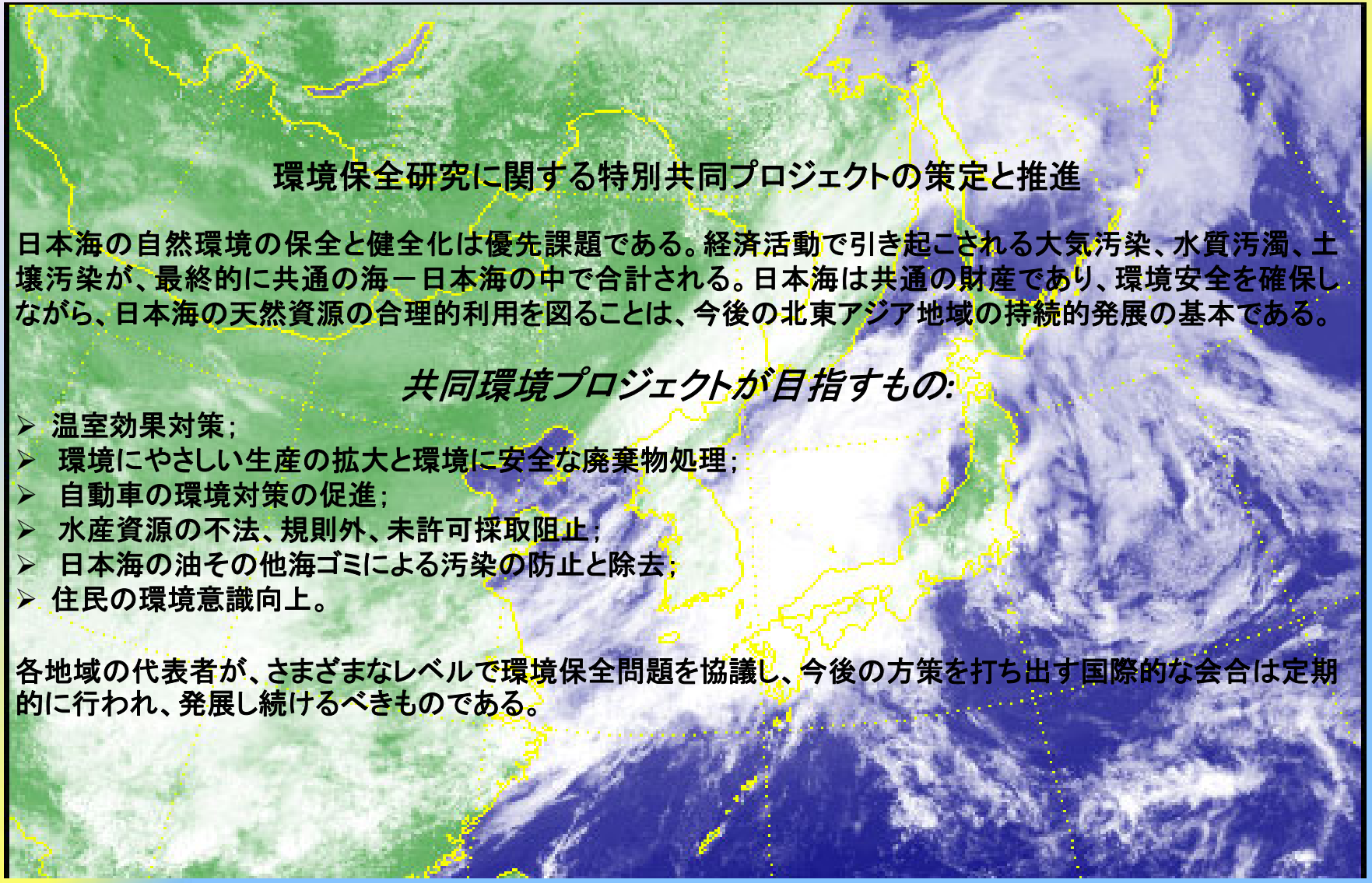
両地域では環境保全の国際交流で最も効果的な方法である専門家交流や研修が行われていない。このような交流は、まさに両地域で蓄積された素晴らしい成果を互いに効果的に紹介する機会となる。

また両地域の様々なレベルの専門家同士で直接交流が進むことは、環境安全やその他環境保全の様々な問題に対する相互理解を図る上で、協力拡大への重要な歩みとなる。

協力の重要な方向性として、生態系や環境保全に関する大卒専門家の育成のための統一教育空間の創出がありうる。

この協力形態は相互主義に基づいて今後さらに拡大していくであろう。

今後の国際環境協力の発展に向けた提案



環境保全研究に関する特別共同プロジェクトの策定と推進

日本海の自然環境の保全と健全化は優先課題である。経済活動で引き起こされる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染が、最終的に共通の海－日本海の中で合計される。日本海は共通の財産であり、環境安全を確保しながら、日本海の天然資源の合理的利用を図ることは、今後の北東アジア地域の持続的発展の基本である。

共同環境プロジェクトが目指すもの:

- 温室効果対策;
- 環境にやさしい生産の拡大と環境に安全な廃棄物処理;
- 自動車の環境対策の促進;
- 水産資源の不法、規則外、未許可採取阻止;
- 日本海の油その他海ゴミによる汚染の防止と除去;
- 住民の環境意識向上。

各地域の代表者が、さまざまなレベルで環境保全問題を協議し、今後の方策を打ち出す国際的な会合は定期的に行われ、発展し続けるべきものである。

Third International Ecological Forum “Nature Without Borders“

第3回環境フォーラム「国境なき自然」

フォーラムの名の通り、自然は国家間の政治的な国境に関係なく己の生態系をつくる。1地域の生態系のほとんどが、国境を越えて分布する。そのため環境の管理、汚染防止策、環境汚染事故が起こったときの復旧対策など、多くの国の専門家の共同の努力が必要であり、国際協力やパートナーシップの全面的な発展が必要である。

フォーラムの主な目的は、好ましい環境の保全、生物多様性の維持、天然資源の合理的利用について現状、問題点、見通しについて総合的に協議をして、共同対策を策定することである。

国際環境フォーラム「国境なき自然」は、徐々に権威ある会議と見なされ、ここでの周りが意見を聞くようになった。このフォーラムは様々な地域の代表者が環境保全について協議し、今後の道を明らかにするための最も理想的な舞台となっている。

１２００名以上の世界の代表者が参加したこれまでの2回のフォーラム（０６、０７年）の中で、環境保全の効率性アップと国際環境協力の強化に関する提案が作られた。

Third International Ecological Forum "Nature Without Borders"

International Ecological Forum

Nature Without Borders

Russian Federation, Primorsky territory, Vladivostok
November 12-13, 2008

Official Web-site: http://priroda.primorsky.ru

Contact Phone number of Forum's Secretariat:
(4232) 49-34-65, 49-37-27
E-mail: priroda@primorsky.ru; tarasenko_yg@primorsky.ru

Thank You

For Attention!